

社会形成能力って何？

11月の半ばに広島市で開催された中国地区小学校長研究大会に参加した。わたしは、「社会形成能力の育成」という部会に出席した。「社会形成能力」という言葉はあまり耳にしないが、発表を聞いて少しわかったことは、どうも社会を形成する人としての力とか、郷土に対する所属意識とか、主権者意識といった内容のようである。

岡山県の7校小学校がある町の先生が実践発表をされた。ホテルを育てている学校、学校に茶畑がある学校、大名行列に関わっている学校など各校の魅力ある実践が紹介された。

発表の後、グループに分かれて協議をした。その中で、広島県庄原市の校長先生が、「それぞれの小学校の取り組みは素晴らしいけれども、小学校区だけの取り組みでいいんですかね。町全体に対する愛着とか所属意識は育てなくていいんですかね。」とつぶやくように言われた。すこしばかり気になって「先生、もう少しわしく話してもらえませんか。」と言うと、「庄原市は、平成17年に1市6町が合併して新庄原市になった。面積は西日本では最大で、広島県北に位置し岡山県と鳥取県と島根県に接している。合併後10年が経過したが市町間のつながりは薄く、庄原市民としての自覚を子どもたちにどう育てていくかが大きな課題になっている。」と言う。

後で調べてみると、庄原市の面積は1,246.6 km²。倉敷市の約3.5倍、倉敷市船穂町の約120倍という広大な面積だ。中国縦貫道の東城、庄原インター間は、30 km あり、玉島インターから福山東インターまでの距離とほぼ同じ。そして、中国山地の山間部にそれぞれの市町はあるから、歴史的にも民俗的にも別個の文化と伝統を持っていることだろう。

その先生が課題だと言うことを我が校にあてはめてみると、船穂町は時を同じくして平成17年に倉敷市と合併した。倉敷市の面積は船穂町の約35倍であり、同質な課題が本校にもあるのではないかと思った。

本校の教育目標は「ふるさとを愛し 心豊かに たくましく生きる子どもの育成」だけれど、ふるさととはどんな所をさすのか。ふるさとを愛するとは、何を愛することなのか。あらためて考える必要があるのではないかと思い、先生方に教育課程の反省の中で考えてもらっている。今週の職員会議で高矢先生から意見を集約したものが提案されるので、その内容を楽しみにしている。